

## A-2-59 ウィーニングプログラムの作成と看護師の意思統一を目指して

沖縄 ハートライフ病院 ICU 松本靖子

【はじめに】当ICUにおけるウィーニングの進め方には看護師により差がみられ、これは個々の看護師の呼吸管理に対する認識の差によるものではないかと考えられた。そこでアンケート調査を行い、その結果を元に勉強会を実施し、ウィーニングプログラムの作成を行ったので報告する。

【対象】ICU看護師 15 人

【方法】①ウィーニングについてのアンケートを実施 ②スタッフ全員が参加できる勉強会の計画、実施 ③ウィーニングプログラムを作成 ④プログラム実施後、アンケートの実施と評価

【アンケート結果1】1.「積極的にウィーニングを進めたことがありますか」の問いに11人のスタッフが「進めたことがなかった」と答えた。その理由として医師の指示がない、進め方が分からないという回答が多かった。2.ウィーニング中に困ったことでは、「呼吸状態、ABGが悪化した場合の判断」「設定変更の基準が分からない」「Drの不明確な方針」等が挙げられた。3.要望として勉強会の実施やウィーニングプログラムの作成という意見が大多数を占めた。

【ウィーニングプログラムの作成と実際】プログラムは、「急性呼吸不全」用と「慢性閉塞性肺疾患急性増悪」用を作成し、それぞれウィーニング中止の指標を記した。10人の患者に使用し、7人の患者が抜管できた。

【アンケート結果2】ウィーニングを進めたことはあるかの問いにプログラム作成前後比較し、作成後の方が進めることが出来たと答えたスタッフが多かった。又、呼吸状態が悪化した時の対応もほぼ全員が何らかの対応が出来たと答えた。

【考察】ウィーニングについての一回目のアンケート結果からウィーニングについての不安が表出され積極的に取り組めないことが考えられた。そこで勉強会を行い、ウィーニングプログラムを作成し実行した。症例を重ねた後の調査では、ほとんどのスタッフがプログラムに沿って進行できたと答えた。換気モード別にステップ基準を設定したことで、ウィーニングの段階が明確になり、また急変時の対応が出来たことにより不安は軽減されたと考える。

【まとめ】1.アンケートを実施して、ウィーニングに対する看護師の不安が明らかとなった  
2.勉強会を実施し、プログラムを作成、実行した  
3.プログラム作成を通して、ウィーニングに積極的に取り組む姿勢がみられた  
4.プログラムは、ウィーニングに対するスタッフの意識を高めた

【結語】今後は勉強会を継続し疾患の理解を深めた上で、患者の個性性を考慮したウィーニングプランを立て、呼吸管理の看護を充実させていきたい。